

新南陽の景況感

調査概要

調査対象期間	2026年4月～6月（現状）における景況感と、2026年7月～9月（今後）における景況見通し
調査対象	新南陽地域の企業63社
調査方法	商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収
調査項目	「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

全体の業況DⅠは前回調査と比較して悪化している。今後3カ月の先行き見通しでは業況DⅠは改善する見込みとなっており、緩やかな回復に期待する。

新南陽地域の2026年4月～6月期の業況DⅠの全産業合計値は案▲66.7%となり、前回調査（2026年1月～3月期）の▲60.0%と比較してマイナス幅が6.7ポイント拡大（悪化）した。全国の「第184回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況DⅠは、前回調査と比較して1.1ポイント低下（悪化）した。

新南陽地域の今後3カ月（2026年7月～9月）の先行き見通し業況DⅠ全産業合計値は▲43.8%となり、現状と比較してマイナス幅が22.9ポイント拡大（改善）する見込みとなっている。全国の今後3カ月の先行き見通し「第184回中小企業景況調査」の全産業合計値は2.1ポイント低下（悪化）する見通しとなっている。原材料・資材価格の上昇や調達

難の影響が続いているものの、設備投資需要の高まりを背景に、建設業や製造業、卸売業で改善の動きがみられる。また、物価高対策や夏のボーナスへの期待、価格転嫁の進展などにより、小売業でも改善がみられる。一方、サービス業では調達価格の高騰などが続いており、価格転嫁による採算改善がみられるものの、企業経営への負担は継続している。（商工会議所LOBO調査2026年6月）

【卸・小売業】

従業員DⅠの項目は前年同期比で悪化している。売上高DⅠ、仕入単価DⅠは改善している。設備DⅠは前回に引き続き、横ばいとなっている。

業況DⅠ、資金繰りDⅠ、採算DⅠは前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）で横ばいとなっている。

今後3カ月の先行き見通しでは、従業員DⅠは改善する見込みとなっている。売上高DⅠ、設備DⅠは悪化する見込みとなっている。

中東情勢の悪化による仕入単価の上昇や原材料不足、個人消費の減少などの影響があると報告有り。

【製造業】設備DⅠの項目は前年同期比で悪化している。

資金繰りDⅠは引き続き改善する見込みとなっている。

悪化する見込みの項目は無い。原材料や資材・資源価格の高騰が続いているほか、従業員の出勤を減らし、人件費を削減しているとの報告有り。

【建設業】業況DⅠ、売上高DⅠ、採算DⅠの項目は前年同期比で悪化している。設備DⅠのみ改善している。仕入単価DⅠ、従業員DⅠ、資金繰りDⅠは横ばいとなっている。今後3カ月の先行き見通しでは、採算DⅠのみ悪化する見込みとなっている。業況DⅠ、売上高DⅠは改善する見込み。

売上高DⅠ、従業員DⅠは改善している。採算DⅠ、仕入単価DⅠ、業況DⅠ、資金繰りDⅠは前回に引き続き全て▲100%（全事業者が悪いと回答）で横ばいとなっている。

今後3カ月の先行き見通しでは、業況DⅠ、売上高DⅠ、採算DⅠは改善する見込みとなっている。悪化する見込みの項目は無い。単価の見直しはされたが、原材料や人件費の高騰で利益の確保が困難な報告有り。

【サービス業】業況DⅠ、売上高DⅠ、採算DⅠ、資金繰りDⅠは改善している。仕入単価DⅠ、設備DⅠ、従業員DⅠは横ばいとなっている。今後3カ月の先行き見通しでは、業況DⅠ、売上高DⅠは悪化する見込みとなっている。

資金繰りDⅠは前年同期比から引き続いて改善する見込みとなっている。中東情勢の影響による顧客の稼働率低下や、塗料・シンナー、包材等の価格上昇による利益減少がみられるとの報告有り。

【飲食・宿泊業】業況DⅠ、売上高DⅠ、採算DⅠ、従業員DⅠ、資金繰りDⅠは改善している。仕入単価DⅠ、設備DⅠは横ばいとなっている。今後3カ月の先行き見通しでは、業況DⅠ、売上高DⅠ、採算DⅠ、

設備投資需要を背景に改善の動きがみられる一方、資機材の納期遅延が多く、設備投資に資金が流れにくい状況となっているとの報告有り。

【運輸業】業況DⅠ、売上高DⅠ、採算DⅠ、資金繰りDⅠは前年同期比で悪化している。改善している項目は無い。仕入単価DⅠ、従業員DⅠ、設備DⅠは横ばいとなっている。今後3カ月の先行き見通しでは、業況DⅠ、採算DⅠは更に悪化する見込みとなっている。売上高DⅠのみ改善する見込み。若手人材の採用に苦慮しているほか、売上に経費を転嫁しきれていないとの報告有り。

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = (増加・好転などの回答の割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化)

売上：(増加) - (減少)

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-66.7	-43.8	-100.0	-100.0	-100.0	-33.3	0.0	-14.3	-50.0	-33.3	-100.0	20.0	-71.4	-100.0
売上高	-25.7	-25.9	-33.3	-71.4	-33.3	-20.0	14.3	0.0	-50.0	-33.3	-33.3	0.0	-33.3	0.0
採算	-58.6	-61.5	-100.0	-100.0	-100.0	-50.0	-14.3	-14.3	-50.0	-33.3	-33.3	-100.0	-66.7	-100.0
仕入単価	-95.7	-95.7	-77.8	-77.8	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
従業員	88.2	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	0.0	0.0	100.0	0.0	-33.3	-33.3	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	-100.0	-100.0
資金繰り	-69.2	-29.4	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	-100.0	-100.0

※前年比…2026年4月～6月と前年同月の比 見通し…今後3ヶ月（2026年7月～9月）の見通し

会員の声

【小売業】

- ◇中東情勢の悪化により仕入れ単価の大幅な上昇。
- ◇原材料不足、高騰、個人消費減少、景気悪化。
- ◇仕入価格の動向、多角・多様化、経営の効率化（スクラップ&ビルド）。

【製造業】

- ◇主要顧客の鉄鋼の長期低迷は、変わらず。さらに、資材、電力等の上昇により収益を圧迫しつつある。
- ◇お客様との単価交渉により数年～数十年ぶりに単価が見直されたことで売上増となるが、人件費や資材費の高騰により利益ベースの変動はない。定期・中途採用に苦戦しており、技能伝承や世代交代が思うように進んでいない。
- ◇原材料の高騰だけでなく、不足も出てきている。
- ◇お客さんの高齢化により、買いに来れなくなることが増加。若いお客さんを増やしていきたい。

【サービス業】

- ◇塗料・シンナー等の価格高騰により利益減少。
- ◇中東情勢の影響による顧客の稼働率低下から状況悪化傾向。
- ◇包材関連が値上げ、不足して原材料の高騰で利益の減少。
- ◇冬の販売会で大きく売り上げが上がる見込み。

【飲食・宿泊業】

- ◇物価上昇に伴い、商品の値段を上げる予定。試しているサービスが好調のため、力を入れていく。
- ◇従業員の出勤を減らし、人件費を削減した。
- ◇この度、プレミアム商品券のおかげで、お客さんが増えているのは、実感しています。

【建設業】

- ◇業界全体がアメリカ・イランの影響を受け、様子伺いになり動きが鈍い結果、設備投資へ資金が流通しづらい環境となっているように見受けられる。
- ◇資機材の納期遅延が多い。
- ◇昨年からの大きな工事が終了し、現在小さな現場が複数となったので、業務ばかりが増えて売上が上がらない状況となっています。仕入原価は上がっていますが、なかなか価格に転嫁できず、採算は厳しい状況です。しかし、前期の内に設備投資や人員確保をすることができたので、今期についてあまり悲観的にはとらえていません。DXなどを活用して業務効率を上げていくことも目指しており、経営状況は想定内であると考えております。

【運輸業】

- ◇船員不足で採用活動に苦慮している。
- ◇仕事量減、人員不足に対して仕入単価増でしばらく好転の兆しはありません。
- ◇人員の高齢化、若手の採用に苦慮。少ない人員で現場を回せるシステムの普及に期待。
- ◇売上に経費を転嫁しきれていない。